

「途上国における鉄道整備と都市・地域開発のあり方」

開催報告

7月31日に、日本大学駿河台キャンパスのCSTホールで、途上国における鉄道インフラ輸出に関わる、鉄道沿線開発および地域開発に関するセミナーが開催されました。プログラムは以下の通りです。

1. 途上国の都市鉄道と沿線開発
森地 茂： 政策研究大学院大学 政策研究センター所長 教授
2. これからの途上国都市における鉄道整備について
渡辺 玉興： アルメックVPI 事業管理本部 海外業務室長
3. 途上国の駅前開発の課題
岩田 鎮夫： アルメックVPI 会長
4. Outline of TOD as a Comprehensive Solution for Smart City Development
吉村 弘之： UR都市再生機構 海外総括役
5. 国土交通省の考えるTOD支援
廣瀬 隆正： 国土交通省 大臣官房技術審議官（都市局担当）
6. インド高速鉄道 駅周辺開発への協力
川原 俊太郎： JICA 社会基盤・平和構築部 国際協力専門員
7. タイ・バンスー地区再開発について
森川 真樹： JICA 社会基盤・平和構築部 国際協力専門員
8. 本日の総括
安達 一： JICA 社会基盤・平和構築部長

本セミナーは、2017年度に行われたJICAプロジェクト研究、「鉄道整備と都市・地域開発を連携させる開発のあり方に関する調査」の一部成果の紹介という役割がありましたが、内容はそれだけにとどまらず、わが国の経験をふまえた鉄道沿線開発のあり方や、PPP展開の留意点、そして具体的な各都市のプロジェクト進捗状況、国土交通省を始めとする、日本側のサポート体制のあり方など、極めて多様な領域をカバーすることができました。

今回は、登録参加者数が180名を越える大盛況でした。そのため、当初予定されていた会場を変更せざるを得ませんでした。参加者にはご迷惑・ご心配をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。本テーマに関連する続編となるセミナーの企画や、従来から継続している「海外交通計画セミナーシリーズ」の次回開催準備も始めたいと思いますので、今後ともどうぞご期待ください。

また、講演者の皆様、セミナー運営に多大なご協力を頂いたJICAおよび日本大学関係者に感謝申し上げます。

EASTS-Japan事務局長
兵藤 哲朗（東京海洋大学教授）

